

# コロナ禍における学生の学習活動 —2020年8月と2021年2月調査の比較—

小坂 有資 (大学教育基盤センター特命講師)

西本 佳代 (大学教育基盤センター准教授)

## 1. はじめに

2020年は、新型コロナウイルスの影響が世界中に広まった年である。このような中で、大学の学生や教職員も、様々な変化に対応する必要があった。そこで本稿では、学生の学習活動に着目し、2020年8月と2021年2月に本学で実施した「遠隔授業に関するアンケート」をもとに2020年度の実態を把握し、課題を提示することを目的とする。

2020年度の授業は、どのように実施されたのかをみてみよう(高橋他 2021)。第1クォーター(4月17日～6月17日)の講義科目については対面授業を行わず遠隔講義とすること、そのうちの4月17日～5月6日は「自宅学習及び遠隔講義準備期間」と位置付ける全学方針が通知された(4月14日付学長名の方針通知)。第2クォーターも、講義科目は引き続き遠隔授業とする(実験・実習科目等は感染防止対策を徹底した上で、実施の必要度の高いものから対面授業を開始する)という基本方針が示された。第3クォーター及び第4クォーターは、科目ごとに遠隔か対面かに関する講義実施方法の希望をあらかじめ確認され、対面希望がある場合は3密回避可能な定員に設定された。

このように、2020年度の授業は遠隔授業への対応を余儀なくされた。しかし、その様相は、前期と後期とでは大きく異なるはずである。教職員も学生も十分な準備ができていないまま始まった遠隔授業だったが、回数を重ね、あるいは遠隔授業に関するFDが開催されるなどして2020年度の終わりには、ある程度の落ち着きをみせるようになった。そうした状況下で何が遠隔授業の課題として残っているのか。その点を明らかにするため、教育戦略室内に置かれている教学IR部が、2020年8月に引き続き、2021年2月に「遠隔授業に関するアンケート」を再度実施した。調査項目は、2020年8月調査を踏襲し、状況にそぐわない項目のみ一部修正している。分析結果は、2020年8月調査と比較する形で、第二筆者が2021年5月に教学IR部運営会議で報告した。本稿は、その内容を第一筆者がまとめたものである。

## 2. 調査の方法

「遠隔授業に関するアンケート調査」は、本学の学士課程の学生を対象として、2020年8月と2021年2月に実施された。本稿では、2時点の調査結果を比較する。

有効回答者の概要は、表1及び表2のとおりである。2020年8月調査の有効回答者数は1,806名であり、有効回答率は32.2%だった。一方、2021年2月調査の有効回答者数は860名であり、有効回答率は、15.3%だった。このように2月調査については、有効回答率が15.3%と低く、データの解釈には留意が必要である。以下では、有効回答者のうち、全学共通科目を多く受講しているであろう2020年度入学生（≒1年生）と、学部開設科目を多く受講しているであろう2019年度入学生（≒2年生）及び2018年度入学生（≒3年生）を分析対象とし、両者を比較した（以下、前者を1年生、後者を2・3年生と表記）。なお、「○年度入学生（≒○年生）」と表記しているのは、各年度入学生には若干の編入学生を含んでいるためである。

表1 有効回答者の概要（2020年8月調査）

	全体	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部
2020年度入学生	713 56.3%	96 58.2%	90 57.7%	138 51.1%	107 55.2%	179 54.1%	97 64.7%
2019年度入学生	432 33.3%	53 31.2%	63 37.7%	43 16.8%	78 35.9%	125 37.2%	66 44.0%
2018年度入学生	365 27.5%	48 28.7%	63 36.6%	58 21.8%	66 31.1%	73 20.4%	52 34.0%
2017年度入学生	209	58	26	38	54	15	16
2016年度入学生	45	3	3	0	29	8	2
2015年度入学生	35	0	0	1	31	3	0
2014年度入学生	6	0	0	0	5	1	0
その他	1	0	0	0	0	0	1
全体	1806	258	245	278	370	404	234

注：値は有効回答者数で、網掛け部分のみ有効回答率。表2も同様に表記。

表2 有効回答者の概要 (2021年2月調査)

	全体	教育学部	法学部	経済学部	医学部	創造工学部	農学部
2020年度入学生	287	24	53	51	56	61	42
	22.7%	14.5%	34.0%	18.9%	28.9%	18.4%	28.0%
2019年度入学生	263	22	39	45	36	87	34
	20.3%	12.9%	23.4%	17.6%	16.6%	25.9%	22.7%
2018年度入学生	174	16	30	29	33	46	20
	13.1%	9.6%	17.4%	10.9%	15.6%	12.8%	13.1%
2017年度入学生	103	17	30	17	17	8	14
2016年度入学生	28	3	1	2	16	4	2
2015年度以前入学生	4	0	0	1	2	1	0
その他	1	0	1	0	0	0	0
全体	860	82	154	145	160	207	112

### 3. 学生調査の結果

#### 3-1. 遠隔授業のタイプによる効果

遠隔授業のタイプによる効果について、受講のしやすさ、満足度、理解度という順に説明していく。第1に、受講のしやすさについて示したものが、表3である。表3は、「遠隔授業を受ける際、リアルタイム型（遠隔講義用アプリケーションを利用した授業）とオンデマンド型（資料や音声付スライドが用意されており、学生が各自学習する授業）のどちらが受講しやすいですか」と質問した結果である。

リアルタイム型について、8月調査と比較すると2月調査では、1年生は差がないが、2・3年生は2.7%増加している。オンデマンド型について、8月調査と比較すると2月調査では、1年生が6.3%、2・3年生が4.8%増加している。どちらも言えないの差は、1年生が6.3%、2・3年生が7.6%減少している。

表3 遠隔授業のタイプによる効果：受講のしやすさ

	2020年8月	2021年2月	差	2020年8月	2021年2月	差
	1年生(a)	1年生(b)		(b-a)	2・3年生(c)	
リアルタイム型	26.8%	26.8%	0.0%	27.0%	29.7%	2.7%
オンデマンド型	46.0%	52.3%	6.3%	49.2%	54.0%	4.8%
どちらとも言えない	27.2%	20.9%	-6.3%	23.8%	16.2%	-7.6%

第2に、満足度について示したものが、表4（リアルタイム型）と表5（オンデマンド型）である。表4は、「あなたは、総合的に判断して、リアルタイム型の授業に満足していますか」と質問した結果である。また、表5は、「あなたは、総合的に判断して、オンデマンド型の授業に満足していますか」と質問した結果である。

リアルタイム型とオンデマンド型のどちらのタイプについても、8月調査と2月調査に

において、満足している（「満足している」と「ある程度満足している」の合計）の割合は、1年生も2・3年生も大半を占めている。さらに、どちらのタイプについても、8月調査と比較すると2月調査では、満足している（「満足している」と「ある程度満足している」の合計）の割合は、1年生は67.1%から79.1%に、2・3年生は60.7%から76.4%に増加している。

表4 遠隔授業のタイプによる効果：リアルタイム型の満足度

	2020年8月 1年生(a)	2021年2月 1年生(b)	差 (b-a)	2020年8月 2・3年生(c)	2021年2月 2・3年生(d)	差 (d-c)
満足している	10.4%	18.8%	8.4%	10.5%	18.3%	7.8%
ある程度満足している	56.7%	60.3%	3.6%	49.7%	58.1%	8.4%
やや不満である	24.5%	14.3%	-10.2%	24.0%	12.6%	-11.4%
不満である	7.7%	6.3%	-1.4%	11.7%	6.2%	-5.5%
受講していない	0.7%	0.3%	-0.4%	4.1%	4.8%	0.7%

表5 遠隔授業のタイプによる効果：オンデマンド型の満足度

	2020年8月 1年生(a)	2021年2月 1年生(b)	差 (b-a)	2020年8月 2・3年生(c)	2021年2月 2・3年生(d)	差 (d-c)
満足している	20.6%	35.2%	14.6%	20.4%	30.0%	9.6%
ある程度満足している	53.3%	47.7%	-5.6%	43.6%	46.7%	3.1%
やや不満である	18.4%	11.8%	-6.5%	18.7%	10.1%	-8.6%
不満である	6.9%	3.5%	-3.4%	7.0%	2.5%	-4.5%
受講していない	0.8%	1.7%	0.9%	10.2%	10.8%	0.6%

第3に、理解度について示したものが、表6（リアルタイム型）と表7（オンデマンド型）である。表6は、「総合的に判断して、あなたのリアルタイム型授業の理解度はどの程度ですか」と質問した結果である。また、表7は、「総合的に判断して、あなたのオンデマンド型授業の理解度はどの程度ですか」と質問した結果である。

リアルタイム型とオンデマンド型のどちらのタイプについても、8月調査と2月調査において、理解できている（「ほとんど理解できている」と「ある程度理解できている」の合計）の割合は、1年生も2・3年生も大半を占めている。さらに、どちらのタイプについても、8月調査と比較すると2月調査では、理解できている（「ほとんど理解できている」と「ある程度理解できている」の合計）の割合は、1年生は70.5%から78.1%に、2・3年生は67.3%から78.0%に増加している。

表6 遠隔授業のタイプによる効果：リアルタイム型の理解度

	2020年8月 1年生(a)	2021年2月 1年生(b)	差 (b-a)	2020年8月 2・3年生(c)	2021年2月 2・3年生(d)	差 (d-c)
ほとんど理解できている	6.6%	15.0%	8.4%	9.5%	12.6%	3.1%
ある程度理解できている	63.9%	63.1%	-0.8%	57.8%	65.4%	7.6%
あまり理解できていない	24.4%	18.8%	-5.6%	22.9%	13.5%	-9.4%
ほとんど理解できていない	4.6%	2.8%	-1.8%	4.9%	2.3%	-2.6%
受講していない	0.4%	0.3%	-0.1%	4.9%	6.2%	1.3%

表7 遠隔授業のタイプによる効果：オンデマンド型の理解度

	2020年8月 1年生(a)	2021年2月 1年生(b)	差 (b-a)	2020年8月 2・3年生(c)	2021年2月 2・3年生(d)	差 (d-c)
ほとんど理解できている	12.8%	24.4%	11.6%	13.7%	22.2%	8.5%
ある程度理解できている	63.3%	61.7%	-1.6%	55.5%	54.9%	-0.6%
あまり理解できていない	18.4%	10.1%	-8.3%	16.9%	9.6%	-7.3%
ほとんど理解できていない	4.6%	2.1%	-2.5%	3.7%	2.1%	-1.6%
受講していない	0.8%	1.7%	0.9%	10.2%	11.2%	1.0%

### 3-2. 遠隔授業の授業外学修時間

ここでは、遠隔授業における授業外学修時間についてみていく。授業外学修について示したものが、表8である。表8は、「あなたは今学期、授業が行われている期間に、授業時間外に授業と関係のある学習・活動に1週間で平均どれぐらい時間を費やしましたか（レポート等の作成や実験等に要した時間、卒業研究等に関する学習・活動も含まれます）」と質問した結果である。

8月調査と比較すると2月調査では、一週間の授業外学修時間が26時間以上と回答した割合は、1年生が26.3%から14.3%に、2・3年生が25.4%から20.4%に減少した。また、「3-3. 遠隔授業で困っていること」の表9からは、「授業課題が多い」の該当者割合も大幅に減少したことがわかる。ここから、学生に対する授業外学修の過重な負担が是正されたことがうかがえる。

表8 遠隔授業の授業外学修時間

	2020年8月 1年生(a)	2021年2月 1年生(b)	差 (b-a)	2020年8月 2・3年生(c)	2021年2月 2・3年生(d)	差 (d-c)
31時間以上	11.9%	7.0%	-4.9%	14.3%	11.9%	-2.4%
26-30時間	14.4%	7.3%	-7.1%	11.1%	8.5%	-2.6%
21-25時間	17.4%	19.9%	2.5%	15.2%	12.6%	-2.6%
16-20時間	17.7%	19.9%	2.2%	16.1%	14.4%	-1.7%
11-15時間	16.4%	21.6%	5.2%	16.0%	17.4%	1.4%
6-10時間	15.6%	15.0%	-0.6%	17.6%	21.5%	3.9%
1-5時間	6.5%	9.4%	2.9%	9.4%	13.3%	3.9%
0時間	0.1%	0.0%	-0.1%	0.3%	0.5%	0.2%

### 3-3. 遠隔授業で困っていること

ここでは、遠隔授業で学生が困っていることについてみていく。遠隔授業で困っていることを示したものが、表9である。表9は、「遠隔授業であなたが困っていることは何ですか」（複数回答）と質問した結果である。

大半の項目において、8月調査と比較すると2月調査では、割合が減少しているため、改善されていることがうかがえる。特に8月調査で割合の大きかった「授業課題についての説明が不十分である」「質問をしにくい」「孤独感がある」等の該当者割合が減少しており、教員学生ともに遠隔授業に慣れてきた様子が見えてくる（「授業課題が多い」については、「3-2. 遠隔授業の授業外学修時間」でも言及している）。

一方、両調査を比較すると該当者割合自体は減少しているものの、依然、一定数が該当している項目もある。1年生について2月調査でも、「受講生同士のつながりがない」（62.4%）、「授業課題が多い」（48.4%）、「集中しにくい」（40.1%）の割合が高く、2・3年生については、「授業課題が多い」（43.7%）、「集中しにくい」（35.5%）、「受講生同士のつながりがない」（31.4%）の割合が高い。

表9 遠隔授業で困っていること

	2020年8月 1年生(a)	2021年2月 1年生(b)	差 (b-a)	2020年8月 2・3年生(c)	2021年2月 2・3年生(d)	差 (d-c)
利用しているインターネット環境が貧弱である	20.7%	21.3%	0.5%	23.3%	16.2%	-7.1%
授業が分かりにくい	29.2%	23.3%	-5.9%	30.6%	16.5%	-14.1%
授業課題が多い	69.7%	48.4%	-21.3%	71.8%	43.7%	-28.1%
授業課題についての説明が不十分である	34.9%	22.3%	-12.6%	36.8%	16.0%	-20.8%
授業課題の提出がなされているか確認できない	28.3%	24.0%	-4.2%	31.0%	19.5%	-11.5%
受講生同士のつながりがない	70.3%	62.4%	-7.9%	39.0%	31.4%	-7.6%
質問をしにくい	40.6%	30.3%	-10.3%	28.0%	18.3%	-9.7%
集中しにくい	53.1%	40.1%	-13.1%	39.6%	35.5%	-4.1%
孤独感がある	33.5%	19.9%	-13.7%	20.9%	11.7%	-9.2%
教室や実家で受講する場合に、周囲に気を遣う	25.1%	24.0%	-1.1%	20.1%	17.6%	-2.5%

注：2020年8月調査と2021年2月調査が同一の項目のみ掲載した。

## 4. おわりに

本稿では、コロナ禍における2020年度の学生の学習活動について、「遠隔授業に関するアンケート調査（2020年8月調査と2021年2月調査の比較）」のデータをもとに確認してきた。ここからみえてきたことをまとめたうえで、今後の課題を提示する。

遠隔授業のタイプによる効果について、8月調査と比較すると2月調査では、リアルタイム型とオンデマンド型ともに、受講のしやすさ、満足度（「満足している」と「ある程度満足している」の合計）、理解度（「ほとんど理解できている」と「ある程度理解できている」の合計）の割合が増加している。

遠隔授業の授業外学修時間について、8月調査と比較すると2月調査では、一週間の授業外学修時間26時間以上のものは減少し、また学生が困っていることのうち「授業課題が多い」という割合も大幅に減少したことから、授業外学修の過重な負担が是正されたことがうかがえる。

遠隔授業で困っていることについて、8月調査と比較すると2月調査では、特に8月調査で割合の大きかった「授業課題についての説明が不十分である」「質問をしにくい」「孤独感がある」等の割合も減少した。

2021年11月現在、対面授業が中心となっている。このような中で、「受講生同士のつながりが弱い」という問題は、改善されたのだろうか。また、今後の状況によっては遠隔授業が再開される可能性もある。その際に、どのようにすれば受講生同士のつながりを感じることができるような授業を実施できるかを検討する必要がある。

このように、8月調査と2月調査を比較して改善されている部分も多くあるが、上記で示した課題もあるため、継続的な調査とその分析が必要であろう。

## 参考文献

高橋尚志・寺尾徹・野村美加・高橋明郎・岡田徹太郎・石井知彦・宮崎英一（2021）「遠隔授業導入の経緯と大学教育基盤センターの対応」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第18号、41-59頁。